

俳諧

明治八百題

春





序

日々其變化時々の流行
 藝翁の遺稿より其變化を
 以てしるる其流行を
 考へて其不易の域を
 ありし其變化を
 ありし其變化を



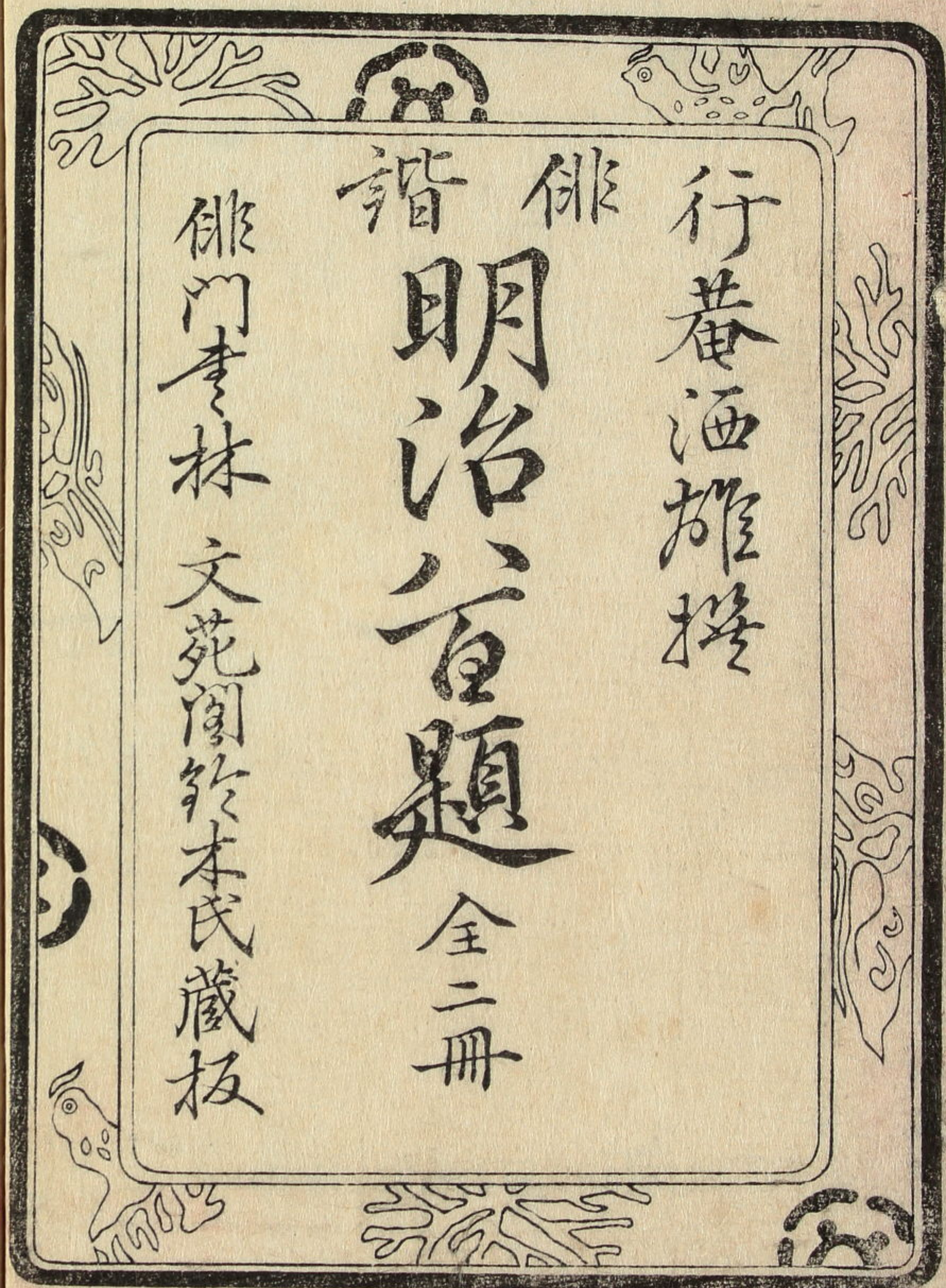
行菴洒雄撰

俳諧

明治百題

全二冊

俳門書林 文苑閣於木氏蔵板



又々々 仍く尾に 10年 類影を 送
し 予 亦 書 を 乞 へ り い ち 海
沿 一 二 三 係 亦 送 とも 若 の 海 行
お へ 送 とも 不 易 其 域 を 備 出 とも
小 さい の こと あり たり

明治己巳夏

閑樹園 せき 権

凡例

一 宛紙の变化も和書筋のりすの紙序より好く目録も
人も心づかぬが今や名人の書も上手之も甚く其
て其情をよみ存すべく幽玄なる志を以て書く
数々の魏の入るるを以て或はかたけの心より書き
廣博なる意を以て是も其の終極首を
引かんとされり其時かたけを以て一門をなさんと
するは才家の好む所なり其書も其意も其書も
此日の海行も不易を忘れざるなり其海行も今

日の旅行の事書き出さるるに河を新しむる夕子
 ありし依りて古人今人を変化し易き忘れず
 旅行におもせさるるに終るとい
 下よりかた死影より香遠よりくくくくくくくく好亭
 いまんとする人作例をも我も厚くこれの筆法を
 一教教を多かりしむ
 一東人の句を我にゆきゆきゆきゆきゆきゆき
 せりゆきゆきゆき

編者述

俳諧明治八百歌集之部

正月	睦月	元日	卯の春	花の春	園の春	壬戌の春
初空	初四	初日	立春	去春	初鶉	初鳥
注連餅	餅菓	餅海老	齒菜	菓菓子	餅菓	初曆
居種	居種袋	鏡餅	雑志	太筈	園固	年男
万葉	蓬菜	喰積	縁栗	櫻肴	俵子	昆布
田作	小殿原	掛鯛	粗公	傀儡師	弓追	所菱
年礼	年玉	吉方	若衣始	四方拜	福壽州	藤積
森上	掛恵女	娘う天	初子水	若水	芦灰飛	吉書
弾初	謡初	湯殿始	初夢	初荷	福戌	三六日

山笑	涅槃舍	鏡裏	东风	沫雪	峯火入	綢曳	福道	苔	手鞠	二日
佐保姫	西行忌	陽炎	春风	春雪	命	爆竹	水祝	芥	小松曳	葉白蓮歌
初紅	二月水取	二月	春風	雪解	水忌	刺掛	帳釘	芥苔	子日	玉せり
皓月	治経酒	釋奠	長閑	珠解	海苔	骨骨	花開	鼠麴州	人日	松の内
春月	西踏	彼岸	霞	山解	餅言	歳旦調詠	本地地縁	鈴菓	夢換	芋の良
春表	辛皮	初午	霞	砂雪	春寒		踏舟	佛の生	名菓	破魔弓
春宵	水口祭	二日祭	八重雲	雪旨	牙色		粥杖	七種	羽子	

二

花守	月守	八重桜	土筆	柳	春柳	菘の臺	炉塞	雛	春山	春日
七橋	秋七	姥橋	高橋	竹花	梅柳	梅	半八秋	白酒	春野	永日
橋	花盛	通橋	通麴	花佳	雪子州	聖梅	所影供	子餅	燒野	為通
梨七	散花	花	橋	初橋	雪子州	白梅	利茶	鞆繩	山燒	水温
松七	花面	花見	山橋	初花	月守梅	月守梅		初打	云月	春水
木蓮	花雪吹	山花	秋橋	幕前	春州	紅梅		田打	弥生	春川
辛夷	名所七	花雪	散橋	林秋	接種	柳		別家	沙干	春海

吹雪	獸交	響	雪倉	蟻	猫意	稻活	木芽	下節	菜七	山菜
夏近	掃綯	雀子	引鶴	蟻の巣	白魚	蘇子	防風	蒲公英	大根	不揃
惜春	馬刀	鶯合	麦熟	初蛙	響		碎米	苗代	子麦	法
朔詠	蛇穴出	鳥帖	鳥の巣	蛙	雪雀		梅子	梅子	蕨	粉圓
	蚕	寄居虫	鳥の巣	田螺	雪鶴		芦角	茶梅	山葵	木瓜
都二百九十五題	春考	鹿角	鳥の巣	帰馬	玄鳥		山吹	合法	薑	薑
		子鹿	百子鳥	春馬	初隼		海棠	五架木	子菜	水菜

俳諧明治八百題

行庵洒雄選

春之部

正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権
 正月 正月の雪あふりてあま守 柳の乳 白権

○春

國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜 國の喜

子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜 子代の喜

老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜 老の喜

月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜 月夜の喜

妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始 妻の始

五喜 五喜 五喜 五喜 五喜 五喜 五喜 五喜 五喜 五喜

法言 法言 法言 法言 法言 法言 法言 法言 法言 法言

和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語

和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語

和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語

和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語

和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語 和語

初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初

子 松 陸 城 旅 言 文 女 嘉 悦 露 山 老 山 皆 如 旭 尾

初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初
初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初	初

馬 院 折 圓 波 平 途 閑 奇 采 文 山 聲 岸 石 壽 是 可 厚

向車	栢	の	る	ふ	ま	つ	り	け	山
漂	移	の	ぬ	く	く	く	く	く	雲
以	々	々	々	々	々	々	々	々	雅
毎	の	ち	う	ち	う	ち	う	ち	新
山	々	の	陸	ま	く	後	中	出	風
う	々	々	々	々	々	々	々	々	名
暇	々	々	々	々	々	々	々	々	里
有	際	々	々	々	々	々	々	々	遊
有	々	々	々	々	々	々	々	々	味
初	々	々	々	々	々	々	々	々	又
々	々	々	々	々	々	々	々	々	河
々	々	々	々	々	々	々	々	々	林
々	々	々	々	々	々	々	々	々	甫
々	々	々	々	々	々	々	々	々	友
々	々	々	々	々	々	々	々	々	史
々	々	々	々	々	々	々	々	々	序
々	々	々	々	々	々	々	々	々	院
々	々	々	々	々	々	々	々	々	宋
々	々	々	々	々	々	々	々	々	室

初	々	々	々	々	々	々	々	々	一
々	々	々	々	々	々	々	々	々	卷
々	々	々	々	々	々	々	々	々	其
々	々	々	々	々	々	々	々	々	則
々	々	々	々	々	々	々	々	々	友
々	々	々	々	々	々	々	々	々	序
々	々	々	々	々	々	々	々	々	院
々	々	々	々	々	々	々	々	々	宋
々	々	々	々	々	々	々	々	々	室
々	々	々	々	々	々	々	々	々	西
々	々	々	々	々	々	々	々	々	馬

珠ら... 太著... 尚固... 手男... 参...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

参... 万... 参...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

懐者	宗のちふと出来し料理やう者	以石
依子	依子や傍やあまのちうし	文河
昆守	於子のいきりて世に昆守の所	夫より
	結ふけ別よめもき昆守の	露屋
田作	田作や何と信じてきこひしき	松竹
	あつらひのめやあまの日の光	序流
小原	たまたまの世に名あり小原	松橋
魚飼	うけ鯛の叔おらやを風	音流
粗公	さうりの様うてきく礼ひり	籠中
	七代人のうてきく礼ひり	翠山
徳源	浦島の出のうてもあし徳源	奇三

世の	さほめりてさよ依保	河	茶友
多遊	多遊やくらももももも		半湖
山	茶ももももももももも		梅笠
	いん又茶屋のそ茶も山		芸翁
	山採る足程所の山茶		指市
	山採る山採る山採る山		尾
子	礼を山採る山採る山		西馬
	山採る山採る山採る山		繁生
	山採る山採る山採る山		梅雪
	山採る山採る山採る山		白扇
	山採る山採る山採る山		翠月

先をきこむらわらわら老の子女はうれ	岩
玉とむやまうらわらうらわらわらわら	春
吉方作まらわらわらわらわらわらわら	多
をらわらわらわらわらわらわらわら	流
三足出くねむもえりわらわらわら	音
手万障いねえねえりわらわらわら	雪
吹らわら風もえりわらわらわら	云
是を始母のまらわらわらわらわら	心
四方洋をまらわらわらわらわら	市
福寿神の戸のまらわらわらわら	永
えきまのまらわらわらわらわら	山

おらわらわらわらわらわらわら	松
りの様りわらわらわらわらわら	尾
箱積くまらわらわらわらわら	山
りけ積りまらわらわらわらわら	好
りの様りわらわらわらわらわら	古
箱積りわらわらわらわらわら	山
生らわらわらわらわらわらわら	音
風まらわらわらわらわらわら	古
箱上りわらわらわらわらわら	旭
りの様りわらわらわらわらわら	水
先をきこむらわらわらわらわら	古

天

子... 春... 実...
 春... 實... 子...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...

子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...
 子... 春... 實...

陽殿始 をえま 海やむ中のま あは 奇三
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 分尾
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 素山
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 梅林
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 永山
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 子佳
 神多 くま 神多 くま 神多 くま 神多 くま 夫一
 福曳 福曳 福曳 福曳 安女
 尾龜 尾龜 尾龜 尾龜 美保
 尾龜 尾龜 尾龜 尾龜 美保

三ヶ日 三ヶ日 三ヶ日 三ヶ日 得全
 二日 二日 二日 二日 穂宝
 玉せり 玉せり 玉せり 玉せり 酒旆
 玉せり 玉せり 玉せり 玉せり 暮古
 松の内 松の内 松の内 松の内 柳穂
 松の内 松の内 松の内 松の内 古世
 松の内 松の内 松の内 松の内 古村
 松の内 松の内 松の内 松の内 古美女

春

人の自然はあをばありとるやき
寝 ぼく

うきうきとてきたのゆきをかきくりに
うき

家菜 寄戸畑もりふいに菜の石は
市 目

人あつらひあはれあつらひ
露 屋

眼体の世もききとよきあはれ
翠 水

あつらひのあつらひあつらひ
水 吟

ゆくまよや鼓もよほりあはれ菜
水 吟

七種 七種は伸 種もよほり
水 吟

七種 七種は洗 種もよほり
水 吟

七種 七種は雪 種もよほり
水 吟

七種 七種は月 種もよほり
水 吟

七種 七種は花 種もよほり
水 吟

七種 七種は草 種もよほり
水 吟

芥苔 氣おのりや さかきふ 芥苔
 蒲葎子 雪ちやくよ 繁る花さぬ 蒲葎子
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔
 芥苔 何さきよ 花さぬ 芥苔

長敷の宇下白り 花 祝ふ
 帳行 とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ
 花 祝ふ とらへ月つとらへ 花 祝ふ

春

削掛	何	新	若	や	う	う	け	石	丈
昔正月	寛	く	や	昔正月	の	家	何	春	瑞
夜	吹	く	や	昔正月	の	立	込	御	重
手	料理	を	昔正月	の	繁	り	水	得	水
歌	詠	ひ	き	事	の	中	も	柳	李
比	忌	事	先	の	多	き	や	船	言
海	苔	葉	葉	を	残	も	き	分	尾
								雪	老
								吹	條
								支	美
								半	水

中	又	入	や	ふ	入	や	その	月	を	せ	ま	し	も	や	め	る	結	瑞	笠
比	中	又	あ	ら	ま	や	ふ	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	ま	酒	旗
																		茶	古
																		玉	体
																		市	月
																		一	壺
																		春	水
																		茶	泉
																		象	文
																		風	簾

春

春

大巾きらきらとみわたるは
 切れ中のひき方ありては
 餘雪一寐入るるら寝の
 魚市のいさねよきら路を
 くらりとせしゆりまゝも
 道のゆくゆくも路を
 一たりのゆりや路を
 弓行のぬりよきら路を
 雪のゆりや路を
 一たりのゆりや路を

野原 児 塚 土 倉 水 石 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
 野原 児 塚 土 倉 水 石 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

中玉を氣をゆるめぬ春の雪をか
 雪山の松のりきりては
 凍雨 冷やりの雪葉難くは
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面
 凍雪 やはりの雪の 面

野原 児 塚 土 倉 水 石 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山
 野原 児 塚 土 倉 水 石 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

春

夕暮ゆかやうくまらふ瀬うね
 春風 春のせよ春の思ひ相見りけり
 まる風やおのゝうらりちるもの
 春のせや鞠よあゆむ春屋さん
 秋ふみく春のせよきしき山
 庭ありらるる白もあふや春の風
 向ふてくも遠くもさうさう風
 春のせのあふもさうさう松の春
 田のまよふ定りけり春の風
 春のまよふけりけり春の風
 春のまよふけりけり春の風

守水
 浪子女
 舞史
 水芹
 春友
 紫月
 紫松
 入家
 春夕
 春野
 石文

まるのちおをさきぬあふ春の
 まるのちおをさきぬあふ春の
 嵐まよふけりけり春の風
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の
 春のちおをさきぬあふ春の

四端
 紫水
 市月
 春野
 春夕
 春友
 春夕
 春野
 春友
 春夕
 春野

吾れ

露

七

閑

七閑
松あり寺風のこころさむらゝ松
きくしつゝふはゆるやむらゝ松
露より毎や霜をを敷まゝ
露ふきむのまゝやまゝは

鳥曉
うの女
木水
清音
東海
松翠
風鈴
菰言
逢流

横堂よみはる家川
夕空やまきむのしの本形寺
みまむらゝみまむらゝむらゝのれ
いゝゝむらゝのむらゝむらゝのふ
夕風やゝむらゝむらゝのふ
うまゝけまねく風の音をこも
静いさゝむらゝのうらゝむらゝ
ゆるゆるまゝむらゝのうらゝむらゝ
くまゝむらゝのうらゝむらゝのそ
そむらゝのうらゝむらゝのそ
月ゝは引ゝむらゝのうらゝ

浴女
うま権
きく権
奏水
霞夕
茨林
系思
渭川
橋月
菰言
層月

を山の重りしえんけり
 うきむりや人の出もあはる岩の地
 秋実をり甲立人かやゆわの
 うきむりや秋を後しむ子の人
 睡むら跡せはうきむりや跡の鳥
 石を末さやうきむりの中跡の鳥
 石をり申一ねんせ
 八重霞
 うきむりやうきむり
 一いつのうきむりや山のうきむり

松風
 水
 一生
 石
 嶽
 仙
 橋
 入
 竹
 半
 石

陽
 陽
 うきむりよ所々松の吉松う那
 陽の眼せせせめく暖いれ
 陽を志すしはまら船のうき
 うきむりの群を末さうきむり
 かげらふの身ささるわをせ
 陽美やあをりしむのうき
 二月
 如月やまをりしむあき山と水
 如月のうきむりあき山と水
 如月やまをりしむあき山と水
 如月やまをりしむあき山と水

古
 陰
 一
 第
 房
 祐
 系
 吾
 曆
 於
 際

二日灸	二日灸	二日灸	二日灸	二日灸	二日灸	二日灸	二日灸
又せそ	又せそ	又せそ	又せそ	又せそ	又せそ	又せそ	又せそ
飯喰	飯喰	飯喰	飯喰	飯喰	飯喰	飯喰	飯喰
さふ	さふ	さふ	さふ	さふ	さふ	さふ	さふ
吹	吹	吹	吹	吹	吹	吹	吹
初年	初年	初年	初年	初年	初年	初年	初年
初年の日	初年の日	初年の日	初年の日	初年の日	初年の日	初年の日	初年の日
さつ	さつ	さつ	さつ	さつ	さつ	さつ	さつ
初年の一日	初年の一日	初年の一日	初年の一日	初年の一日	初年の一日	初年の一日	初年の一日
萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩
萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩
萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩
萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩
萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩	萩

涅槃會	涅槃會	涅槃會	涅槃會	涅槃會	涅槃會	涅槃會	涅槃會
西行忌	西行忌	西行忌	西行忌	西行忌	西行忌	西行忌	西行忌
二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒	卒
弦	弦	弦	弦	弦	弦	弦	弦
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸
糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸	糸

山笑 空ろくく日ろくくふ大山小山の那 弓柳

湖をろくろくくく持てく日ろくくふ山 山

雨二日おろくく降る山笑ふ 玉以

節買てくろくくくくくくくくくくく 函賞

宵戸山も笑ふおくくくくくくくく 児探

さく波も制くくくくくくくくくく 森山

笑ふ目の山より降るくくくくくく 志海

深き色よりくくくくくくくくくく 只新

依保姫とくくくくくくくくくくく 浪守

依保姫のくくくくくくくくくくく 浪守

依保姫

初 虹 初 虹 や を と 末 山 の 日 ち り ち 弓 柳

月 扇 陰 影 よ 又 せ ぎ ぎ ぎ ぎ 月 四 山

風雨のちあまの 疎く 於 ち ち 月 弓 柳

月と虹とあまの 機 や 明 け の ち 弓 柳

浅き生やぬきぬき 於 ち ち 月 市 月

あまの 丘 へ 鳴 け り 機 月 扇 柳

風を 替 へ の ち ち ち ち ち ち 機 月 扇 柳

春 月 ち ち ち ち ち ち ち ち ち 扇 柳

外ららち 鳴 け 枝 折 戸 や 春 の 月 扇 柳

春の け ち ち ち ち ち ち ち ち 扇 柳

春	春	春	春	春	春	春	春	春	春
日	夜	宵	宵	日	日	日	日	日	日
池	夜	外	外	池	池	池	池	池	池
邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
西	西	西	西	西	西	西	西	西	西
馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

春	春	春	春	春	春	春	春	春	春
日	夜	宵	宵	日	日	日	日	日	日
池	池	池	池	池	池	池	池	池	池
邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊	邊
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
西	西	西	西	西	西	西	西	西	西
馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬	馬
隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣	隣
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山

子程の志ありらるやあはれむ
 水 田入をそそ遊ませむや春の山 半水
 大庭やりの変よもそそ水の 春水
 階子田や撒へそそそそ春の水 水
 雪のある山を根よそそ春の山 水
 岩もあや水柱をそそそそ春の山 水
 春の川 管笠を置忘せり春の川 水
 思ふより子程のあやそそ春の川 水
 春の海 是こそそのお寂もそそそそ春の海 水
 りれ出そそ月の入そそそそ春の海 水
 能あるの大きそそそそ春の海 水

春の山 佐山あそそそそ春の山 水
 春の山 山あそそそそそ春の山 水
 家とあそそお宮あそそ春の山 水
 雪をそそそそそそそそ春の山 水
 層をそそそそそそそそ春の山 水
 海にそそ春の山あそそそそ春の山 水
 下総やそそ春の山あそそそそ春の山 水
 春の山 山あそそそそそそ春の山 水
 春の山 山あそそそそそそ春の山 水
 春の山 山あそそそそそそ春の山 水
 焼 焼 焼のやけ焼そそそそそ春の山 水

山	燒	三月	彌
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生
燒	三月	三月	生

源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細
源	龍	白	子	曲	秋	細

烟くちや海よりくち身のをさるん
 葉梅
 田打 唐通は休ませくち田くちん
 備函
 花より花のくちきくち田くちん
 梅歌
 別粟 明星くち宿あくち花のくちき
 分板
 さくくちのまの芽せんやふくち
 蒼ま
 花くちんくちまのくちのくちのま
 のこ
 新のくち水くちくち新やふくち
 漁重
 炉室 炉室くちあきのむくちくち
 一歌
 半八夜 くのあきのくちふくちくち
 松葉
 落の臺 木のくちよくちくち細念ん
 落の臺
 切刻きくちまのくちくち落の臺
 上まら
 木海

梅

又人よありぬ人よまのくち落の臺
 青里
 花くちんくちくちくちくちくち
 桑古
 花くちんくちくちくちくちくち
 曾進
 花くちんくちくちくちくちくち
 冷水
 十分まを月歌あり梅歌を
 阪高
 雪情くちくちくちくちくちくち
 久外
 住人の日記をくちくち梅のま
 万古
 咲くまのくちくちくちくちくち
 赤哉
 招くくちくちくちくちくちくち
 分尾
 花くちんくちくちくちくちくち
 厂臺

梅の香もあはれ世に	影うらら	喜水
活房の梅のうら	やうら	熱平
梅のやうら	雪のうら	皆如
梅のうら	人のうら	成伍
梅のうら	梅のうら	一路
梅のうら	梅のうら	木晓
梅のうら	梅のうら	五休
梅のうら	梅のうら	栞水
梅のうら	梅のうら	酒山

あつくと	梅のうら	玉枝
梅のうら	梅のうら	文圭
梅のうら	梅のうら	共奴
梅のうら	梅のうら	半水
梅のうら	梅のうら	の侯
梅のうら	梅のうら	花翠
梅のうら	梅のうら	明女
梅のうら	梅のうら	若子
梅のうら	梅のうら	修古
梅のうら	梅のうら	竹葉
梅のうら	梅のうら	涉女

又	了	際	も	あ	ら	く	く	忘	き	ぬ	柳	亦	皆	如
さ	く	そ	く	も	志	ぬ	柳	の	そ	も	き	亦	唐	月
柳	う	ら	ん	く	柳	う	柳	や	夕	柳		多	奇	
地	を	く	く	枝	う	ら	下	竹	柳	う	乳	未	力	
さ	せ	ハ	ほ	く	柳	受	一	柳	亦			露	屋	
柳	う	外	志	く	く	く	く	く	く	く	く	若	子	
あ	ら	く	く	く	一	り	あ	き	柳	う	乳	松	風	
柳	や	玉	柳	く	あ	る	浦	瑞	う	乳		丁	臺	
立	る	き	り	く	く	く	門	の	柳	亦		雅	弘	
く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	子	佳	如	

青	柳	指	の	妻	指	を	き	れ	ハ	妻	玉	柳	亦	系	思
活	う	く	く	あ	り	ぬ	柳	の	き	や	く			素	古
妻	柳	や	り	う	く	く	く	く	く	木	の	言	う	一	曉
柳	亦	く	あ	ら	く	ふ	弘	の	き	あ	き	亦		分	尾
梅	柳	子	一	つ	は	梅	う	咲	せ	く	梅	柳		文	何
む	つ	き	き	め	あ	ら	く	梅	板					長	柳
雪	さ	く	く	梅	や	天	く	根	分	の	梅	柳		半	水
柳	亦	く	あ	ら	く	く	く	く	く	く	く	柳		未	和
柳	亦	く	あ	ら	く	く	く	く	く	く	く	柳		明	如
雪	さ	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	柳		洒	旋

雪乃子	取まきし	伸き	も	浅し	雪乃子	古棠
鳥子	鳥子の	うへ	より	ま	き	月
喜州	山を	く	ま	き	あ	り
風を	く	ま	き	あ	り	ま
あ	ま	き	の	中	ま	き
後	種	梅	の	代	出	し
子	加	減	の	ま	あ	り
枕	の	り	を	枕	の	り
山	一	つ	浅	し	を	の
ま	大	根	修	く	枕	の
暖	あ	ら	本	能	や	う

又	通	し	の	小	坂	も	何	も	や	枕	の	花	壽
枕	ま	や	舟	船	を	ま	る	こ	も	ぬ	ま	茂	人
了	男	の	子	り	足	る	さ	や	を	枕	を	叶	葉
凶	さ	の	空	を	も	心	名	枕	を	の	む	一	鳥
竹	花	ま	ま	あ	り	を	花	の	竹	ま	り	分	尾
花	を	結	ら	ら	を	な	ま	旅	宿	を	梅	並	
竹	も	ら	う	花	の	あ	り	の	さ	り	れ	久	女
神	梅	咲	を	せ	ぬ	さ	ら	し	を	ら	や	東	際
花	を	あ	ら	ひ	の	何	し	を	神	梅	無	西	馬
一	口	に	梅	を	あ	ら	ひ	を	梅	乙	旗		

翻

時りりふ出まこそら	神橋	橋山
ふかたなまをいさむや神を	神橋	橋山
初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
花催 初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
神花 初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
神花 や夕葉 初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
暮秋 あき日わが	神橋	橋山
古草 初さくらをふかのあき日わが	神橋	橋山
花吹	神橋	橋山

中を暮る時のはや古草	層日
砂まの風を	梅林
初さくらをふかのあき日わが	文彦
初さくらをふかのあき日わが	賈泊
初さくらをふかのあき日わが	東橋
初さくらをふかのあき日わが	修方
初さくらをふかのあき日わが	儀抄
初さくらをふかのあき日わが	賢史
初さくらをふかのあき日わが	西馬
初さくらをふかのあき日わが	一節
初さくらをふかのあき日わが	春

花

けしほあきひをうり花に咲きけり 風
 けしほあきひをうり花に咲きけり 南
 けしほあきひをうり花に咲きけり 山
 けしほあきひをうり花に咲きけり 木
 けしほあきひをうり花に咲きけり 梅
 けしほあきひをうり花に咲きけり 市
 けしほあきひをうり花に咲きけり 菴
 けしほあきひをうり花に咲きけり 春
 けしほあきひをうり花に咲きけり 文
 けしほあきひをうり花に咲きけり 一

けしほあきひをうり花に咲きけり 米
 けしほあきひをうり花に咲きけり 五
 けしほあきひをうり花に咲きけり 秋
 けしほあきひをうり花に咲きけり 船
 けしほあきひをうり花に咲きけり 獨
 けしほあきひをうり花に咲きけり 枯
 けしほあきひをうり花に咲きけり 山
 けしほあきひをうり花に咲きけり 一
 けしほあきひをうり花に咲きけり 持
 けしほあきひをうり花に咲きけり 竹
 けしほあきひをうり花に咲きけり 木

花は峰をりや青色もきみり川
 河川をぬり花よのまのあきせ
 次くと花のしり 大河の那
 花よき出まもいより花の苗中
 花よりをりきと中をり花をり
 河川の舟歩りもきき花の中
 花又 えるもそはくき花の一日これ
 棟かんよき武士を除く花えん
 きのもくく出く咲き花えん
 旅くきー思きぬ花をりて
 うきくく子のまを思ひま花えん

花見
 五雀
 危帆
 分尾
 林障
 西障
 又く
 ぬ少
 一陽
 南之
 素尾

よき人のつらき花つて花えん
 又く花をりよせおき旅をき
 ちりちりもくもく花をり志きり
 山 花 見りて本のめねくり山の花
 繁あきまもくもく花の花
 ちり夜もつらきむの山花
 花をりぬ人ふー花の丸折
 花月やあきまの流を峰の花
 一まもら花をり知り花の丸折
 花雪の雪をぬり花の丸折
 花戸出や人を結る花の丸折

花見
 五雀
 危帆
 分尾
 素古
 其好
 素好
 浪女
 文河

花雪吹	花のあはれいしやむねのるるねふ	西権
名所花	花の餌とくつりて花のふりき	分尾
	花のあはれいしやむねのるるねふ	一系
	花のあはれいしやむねのるるねふ	逢原
	花のあはれいしやむねのるるねふ	文河
	花のあはれいしやむねのるるねふ	素祭
	花のあはれいしやむねのるるねふ	信子女
	花のあはれいしやむねのるるねふ	未足
	花のあはれいしやむねのるるねふ	少芹
	花のあはれいしやむねのるるねふ	書荷
	花のあはれいしやむねのるるねふ	恒丁

花	花のあはれいしやむねのるるねふ	変	画村
枝	花のあはれいしやむねのるるねふ	一	曇
	花のあはれいしやむねのるるねふ	存取	
	花のあはれいしやむねのるるねふ	あは	山
	花のあはれいしやむねのるるねふ	流	女
	花のあはれいしやむねのるるねふ	玉	枝
	花のあはれいしやむねのるるねふ	五	休
	花のあはれいしやむねのるるねふ	素	力
	花のあはれいしやむねのるるねふ	児	探
	花のあはれいしやむねのるるねふ	石	叟
	花のあはれいしやむねのるるねふ	呂	吉

花のうけ思ふは福つとき	修古
神山の権をのらうや	浪水
山風よあつてもせぬ	西旋
花を替るやあふね	一段
花のま思ふのそきぬ	浪字女
つるもあきい	春水
花のまき	程重
花のうけも地へ	文河
花のまきく口	性誠
花のまき	愛柏
花のまき	完路

木蓮花	又こ
権変は深ぬ	得永
辛夷	きく雄
江の向く	波平
小米花	梅市
石楠花	又こ
花のまき	修古
花のまき	直如
下あよ	一段
雪のまき	史彦
花のまき	梅市

小形園花	小つまや	枝を風まわく	梅市
木匠志	株の厚さ	木匠の花	船言
薑	くまや	枝をまわく	分枝
	茎まや	枝をまわく	松風
	花	花をまわく	ぬ久
	葉	葉をまわく	梅笠
	葉の枝	葉の枝をまわく	市日
	葉の枝	葉の枝をまわく	露屋
	大根	大根や畑	得水
	子麦	子麦の子	控井
甘藷	汁	汁をまわく	活字女

山葵	味	味をまわく	文河
草	色	色をまわく	風鈴
	花	花をまわく	又く
	葉	葉をまわく	洪音
	子	子をまわく	陸丁
	子	子をまわく	多音
	子	子をまわく	西隆
	子	子をまわく	一炊

下流	下流	や	形	水	の	ま	る	穀	の	中	波	平
下流	ま	る	や	出	知	ま	る	花	の	屋	玉	翠
備	英	多	ん	あ	け	吹	り	心	ま	る	あ	ら
ん	あ	け	や	汐	の	ま	る	ぬ	海	の	屋	し
苗	代	ま	き	山	の	雷	え	ま	る	く	登	井
苗	代	の	ま	め	は	け	る	峰	の	月	春	水
ま	ら	戸	う	ら	竹	の	ま	る	や	苗	代	田
苗	代	を	ら	ん	と	出	お	け	や	ち	の	家
持	竹	持	子	や	た	ま	る	ま	る	ま	る	ま
つ	つ	子	の	ま	あ	ら	ら	ら	ら	ふ	口	向
持	子	や	ま	履	を	ま	る	ま	る	ま	る	ま

桑	持	杓	把	の	ま	け	つ	む	や	桑	持	の	苗	宇	ら	弘	柳
下	流	の	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま
五	架	木	唄	を	水	つ	つ	流	ま	る	五	架	木	水	う	ら	心
二	夜	め	の	ら	飯	へ	も	入	る	五	架	木	水	う	ら	心	費
本	の	芽	吹	より	も	ち	や	ま	ぬ	ま	る	の	本	の	芽	水	未
防	風	防	風	や	礎	の	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	一
碎	末	花	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	木
根	子	船	く	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	木	根
ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	ま	る	八	我

白 魚
 魚 妻めくや白魚ハ海の松のまふ
 市ノ出く白魚を—— 船の月
 けりまも神とのらくき白魚ハ
 赤魚を任せくをくき明井外
 長柳 船言 一 出 出 完 際 吹 際 系 思 系 中 系 依 系 古 芳 佳

号
 妻 林の築もくまや白魚妻
 若るや持くくゆき—— 妻の赤
 号や毎の赤くく—— 陣のま
 うくくまの赤くくま—— 鳴くく
 若るややけんくおきふ此お折戸
 若るの赤くくく—— 守の鳴くく
 若るやくくく—— 遊るく地より
 うくくくくくくくくくくくくく
 若るや時作くくくくくくく
 若るの羽風をくくくくくくく
 長柳 船言 一 出 出 完 際 吹 際 系 思 系 中 系 依 系 古 芳 佳

春の初めはさくらと玉きり花
 雛子啼きやあまのこね波の聲は
 星のまはるやぬきさくら初め
 羽衣のたのしみは梅の初啼雛子
 花のまはるはさくらや花の初啼
 雛子のまはるはさくらや花の初啼
 きりぎりすはさくらや池の水
 さくらや雛子のまはるはさくら
 春のまはるはさくらや花の初啼
 雛子のまはるはさくらや花の初啼
 春のまはるはさくらや花の初啼

石土 翁吟 春三 新風 在象 花月 一語 木琴 祭月 洒旗

春の初めはさくらと玉きり花
 雛子啼きやあまのこね波の聲は
 星のまはるやぬきさくら初め
 羽衣のたのしみは梅の初啼雛子
 花のまはるはさくらや花の初啼
 雛子のまはるはさくらや花の初啼
 きりぎりすはさくらや池の水
 さくらや雛子のまはるはさくら
 春のまはるはさくらや花の初啼
 雛子のまはるはさくらや花の初啼
 春のまはるはさくらや花の初啼

子板 野井 市月 梅邊 一語 雛子 花賞 紫雲 弓道 直如 仙子

據の榮 榮の輝の都よるまはしむ川之
神 陸 永 陸をまらぬまらぬやまらぬ陸 陸外

陸

陸よもあまをいしむ一取之取うれ 陸古
居をまらぬのつとむとく和をまらぬ 室古
實うらうらやまをまらぬとらうらまらぬ 嶽史
舎をのたぬぬあまあり和をまらぬ 跡江
校川や来りしとまらぬまらぬ 陸 傳函
うまらぬあまぬあまらぬ二云とらぬ 木院
その輝しとらぬまらぬまらぬまらぬ 多折
はしとらぬあまらぬあまらぬまらぬ 弘治
まらぬまらぬとらぬまらぬまらぬ 京洲

田 螺

夜居るちまをまらぬのうらまらぬ 仙子
鳴るまらぬまらぬまらぬ 谷明
そのおをまらぬまらぬまらぬ 柘林
おをまらぬまらぬまらぬ 牛山
鳴るまらぬのうらまらぬまらぬ 秋葉
おをまらぬのつとまらぬまらぬ 漁重
置ちまをまらぬまらぬ 西馬
陸城い田うらまらぬまらぬ 名山
まらぬまらぬのうらまらぬまらぬ 水音
まらぬまらぬのうらまらぬまらぬ 船言
おをまらぬまらぬまらぬまらぬ 吞吹

寄居虫	何をせよもあゝ	粧をきき	安みはひ	修古
運出	してよき	口より	安みはひ	石丈
若落角	くしり	くしり	若落角	石丈
子若	くしり	くしり	子若	石丈
度	くしり	くしり	度	石丈
餌	くしり	くしり	餌	石丈
歎	くしり	くしり	歎	石丈
ま	くしり	くしり	ま	石丈
馬	くしり	くしり	馬	石丈
院	くしり	くしり	院	石丈

院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院
院	院を出るや	結の	院	院

春

春の波ぬれくもくもく来より
 日毎歩く庭を廣く春月くれ
 松より一は夜に花の門は似す
 春も花より一人情ゆふあはら
 家の竹や火桶も春の格うら
 ちねくと草さけりや春の不二
 晴多し晴くあはれも春の色
 秋昔とあはれくもゆき蓬うれ

素力
 雪操
 卓雅
 五々
 此一
 林際
 香芸
 洒旌

